

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2372102216		
法人名	南部薬品株式会社		
事業所名	グループホーム リズム		
所在地	岡崎市若松町字西之切50		
自己評価作成日	平成22年25日	評価結果市町村受理日	平成23年1月17日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhyou-aiti.jp/kaigosip/top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 ケア・ウィル		
所在地	愛知県名古屋市中村区椿町21-2 第2太閤ビルディング9階		
訪問調査日	平成22年11月5日	評価確定日	平成22年12月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「いたわりあい・たすけあい・おだやかに・ともにくらす」の理念としています。施設の周りには田畑があり季節を感じる事ができ、花見・夏祭り・運動会などの施設行事も行っていきます。春と秋には日帰りの行楽へ出掛け職員も一緒に楽しい1日を企画します。また、家庭菜園やガーデニングもレクの一環に取り入れており、花壇の手入れや作物の収穫をしたら調理して食卓に並びます。地域密着型ですので、地域の方との交流を大切にしています。ボランティアの方による歌や踊り、地域の方をお誘いしての夏祭りなどの施設行事、民生委員や包括支援センターや総代様との密な連絡を行っています。職員への勉強会を月に一回実施し、サービスの向上を目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームでは地域の中で、地域の人々と「ともにくらす」を理念の1つとしており、法人でグリーンデイを設けて、施設周辺の清掃活動をホームが中心となり実施している。この活動が地域の人達とのコミュニケーションの場となり、庭で実った柿を差し入れてくれる方もいる等、地域との関係づくりに貢献している。運営推進会議は時々メンバー以外の参加者があり、提案を受けホーム運営に反映されるよう努めている。入居者へのサービスは職員がどうするのではなく、入居者がどうしたいか、何を望んでいるのかを優先に取り込んでいる。職員1名で入居者2~3名を担当する担当制を実施し、職員が適宜担当を替えることで違った視点で入居者の日々の生活、気付きなど新しい情報を把握することができ、全職員で情報を共有し介護計画に活かしているホームである。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができて (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Alt+Enter)です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容	
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	両ユニットの玄関に掲示板を設置しており、「いたわりあい・たすけあい・おだやかに・ともにくらす」を常に意識できるよう張り出してあります。	地域で「ともにくらす」を目標として「いたわりあい、たすけあい、おだやかに、ともにくらす」を理念として、ホーム玄関に掲げている。毎月のミーティングで事業所及び職員として、理念に基づく介護サービスを実施するため、どう対応していくか話し合い確認している。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方たちによるボランティアを月に4～5回行って頂いています。	施設に隣接する小学校の児童と交流会を毎年開催したり、中学生の職場体験を受け入れる等の他、月に4～5回の地域ボランティアの来訪や、地区の祭りに敷地を提供したり、入居者も参加するなど、地域住民とは良好な関係を築いている。	ホームで実施する行事の案内を、地域住民にポスティングをしているが、グループホームが持っている専門性や実践で培ってきた知識を地域へ還元し、認知症などについての理解や認識に対する啓蒙や啓発の取り組みを期待したい。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	夏祭りや会社主催のイベントなどの催し物へお誘いし、参加して頂けるよう案内をしています。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族代表の参加者人数を増やし、より多くの家族の方に来て頂いています。議事録を作成し、会議での重要事項や要望は必ず全職員へ伝達しています。	運営推進会議は年6回奇数月に開催している。メンバーは地域代表者、民生委員、市担当者、有識者、家族代表者、管理者、職員で構成されている。議題は運営状況、活動報告、行事、イベント予定、外部評価等についてである。9月の会議ではメンバー以外に市の相談員の参加があり、ボランティアを紹介され、訪問を受ける等、ホームの運営に反映させている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所からの定期的な回覧文書や、法令を遵守する為の運営規定の確認や業務内容の相談を行っています。月に1度、民生委員が訪問に来て下さっています。	毎月、市の相談員の来訪を受けたり、事務連絡や、介護に関する法令の確認、相談等で市担当者の指導、助言を得るなど、市町村との連携を密にすることによって、円滑な事業所の運営を図っている。また、市主催の研修会に職員が参加して、サービスの質の向上に努めている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	社内外の研修や勉強会に参加・実施し、各入居者様が「本人らしい生活」を送れるように努めています。	管理者、職員は身体拘束の弊害を認識するとともに、拘束をしない介護指針があり、研修を行うなど周知徹底を図っている。併設する事業所への出入口は施錠しているが、裏庭への出入りは自由である。補助器具として、ストッパー、カメラ等を設置しているが、職員配置の少ない時と夜間のみ使用とし、見守りを重視したケアに取り組んでいる。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	社内外の研修や勉強会に参加・実施し、各入居者様が安心して安楽に生活が送れるように意識を徹底しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実践者研修などで知りえた知識を全職員に共有できるよう勉強会の場を設け、入居者様の権利を侵害しないように細心の注意を払っています。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前にしっかりと説明をしています。また、不明な点があれば、いつでも応えられる体制が整っています。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設内に意見箱を設置したり、申し送りの場として朝と夕のミーティングの実施を行っています。その伝達事項を书面化し、全職員が確認できるようになっています。	家族会は行事に合わせて年3回開催し、多くの家族が参加し、リアルタイムな議題で話し合いを行っている。意見箱があるが、直接伝えてくれる家族が多く、担当職員が話を聞いている。また、連絡漏れの無いよう、職員が考案した用紙に記載し、情報の共有に努め、運営に反映させている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	自部署でのミーティングを毎月行って職員の意見を仰いでいます。会社としては意見調査なるアンケートを取りまとめています。	毎月、ミーティングを行い、職員の気づきやアイデア、意見等を聞き、これらを反映したサービスを実施し、質の向上に努めている。内部異動や担当替えは職員の要望、意見等を配慮しながら、必要に応じて行っている。異動等の情報は「リズム便り」で家族に知らせている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	半期ごとに各職員に課題や目標を設定してもらい、達成する事で評価対象の一つとなるので各々が努めるべきことが明確化されています。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月社内研修を行っており、知識と技術の向上を図っています。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎月の社内研修は部署問わず、どの内容の研修にも参加でき部署間においてお互いに協力し合える事を目的の一つとしています。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	傾聴を基本とし、本人の生活史や好みなどを会話の中で聞き取って理解する姿勢とその情報を全職員にも共有して統一したケアを心掛けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談など家族の声が直に聞ける場を設けており、漏れのないようアセスメントを行っています。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメント・ケアプラン作成・ケア実施・モニタリングを基本としています。当施設の併設型である特性を活かして、他部署とはすぐに連携が取れるように体制は整っています。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の個性や体調に気を配りながら「手伝わせて頂いている」という気持ちを忘れずに接しています。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族会の実施や、2か月に1回の「リズム便り」を送り近況報告をしています。各入居者様に担当職員を配置し、連絡事を任せています。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会や外出で訪れた方にはどなたでも歓迎し、入居者様との関わりを優先に対応しています。	買い物に出かけ知人や友人に会った場合やホームに来訪された時には、本来の目的を中断し、入居者が望む必要時間を優先するようにして、関係を大切にしている。手紙や年賀状の交換及び、電話の交信は職員が介助を行い、継続できるよう支援している。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同での農作業や調理やおやつ作りなどの機会を積極的に設けています。コミュニケーションが苦手な入居者様には、職員が間に入って対応しています。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	年賀状のやり取りを続けており、問い合わせがあると快く対応させて頂いています。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の要望や希望に沿った部屋の環境作りや、共同の空間であるフロアなどの飾り付けについても意見を仰いで一緒に環境作りをしています。	職員は入居者一人ひとりの思いや希望、意向の把握に努め、その人らしい暮らしができるよう取り組んでいる。職員が適宜、担当替えることにて違った視点で入居者の日々の生活、気づきなど新しい情報を把握することができ、これをアセスメントシートに記録し、全職員で情報を共有している。また、把握が困難な場合はアセスメントシートを見直して、コミュニケーションに努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	基本情報など生活史を作成し、その方の希望や想いを確実に把握し理解するように努めています。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	それぞれのADLやIADLに合わせて出来る事と出来ない事を把握し、残存能力を維持・向上できるよう努めています。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族の希望や本人の思いを聞き取り、ケアマネと担当職員が相談をし合いながら適したプランを作成しています。	ホームでは職員が入居者2～3名を担当しており、計画の見直しには管理者、リーダー、ケアマネジャーともに参加し、検討して計画を作成している。また、家族からの意見や要望を担当職員が聞き取り、計画に反映するよう取り組んでいる。入居者に変化が見られる時はその都度、現状に即した計画となるよう見直し、家族に説明し同意を得ている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	アセスメント・ケアプラン作成・ケア実施・モニタリングを基本とし、気配り目配りを欠かさずに日々の介護記録を反映させながら作成しています。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設型の施設という特性を活かして、他部署との連携を図りながら要望があれば速やかに対応ができる体制になっています。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎月のボランティアによるイベントや出張サービスの理美容、外食した際の飲食店側の快い対応に、民生委員の定期的訪問などの支援があります。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎週木曜日に幸太中央クリニックと月に1回のおおばクリニックの往診があり、異常や要望があれば協力医療機関との連携がとれるようになっていきます。	協力医療機関がかかりつけ医となるが希望の医師にかかる方もいる。通院の付き添いは基本的には家族だが、場合により職員が対応し重症の場合は職員も付き添い状況を伝えている。併設の施設に看護師が常駐し、必要があれば対応できる。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当施設には必ず看護職員が勤務しているので、速やかに対応できます。また、診てもらった方の様子を詳しく伝える為にも、日々の記録を充実させています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院しあた際には入院先と密に連絡を取って経過観察を聞いたり、お見舞いや家族の方と連絡を取って様子を伺っています。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	必要に応じて家族の方と相談しながら、今後の在り方を聞き取り、希望や想いを聞いて汲み取るように努めています。	医療行為ができないため終末期には対応していない。重度化に際しては家族の希望を聞いて相談していく。今回家族会の後に全家族に重度化した場合の対応について説明し、他施設への事前の申し込みを提案した。また、併設の施設と連携して対応するケースもある。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	あいああ軽度の手当てはほとんどの職員が行えており、判断が困難な場合は看護師に指示を仰いでいます。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の対応・対策についての勉強会を実施しており、全職員が避難経路と非難場所を周知しています。	消防署の協力を得て併設施設の避難訓練に職員とともに入居者も参加し、リズム独自では職員が夜間の出火を想定した勉強会を行った。災害に備え食料、毛布、避難袋など準備している。また、地域の協力を得られる体制となっている。	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全部屋が個室となっており、プライバシーは確保されています。共有フロアと入室が行き来しやすい環境整備はされています。	入居者の自尊心を傷つけることのないよう言葉や言い方に気をつけ、職員同士が感性を鍛えようと注意し合い、ベテランの職員は若い職員を積極的に指導している。入居者が外出する時は、居室に鍵をかけるなど居室への入室に気を配っている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人のニーズを聞き出せるよう傾聴に心掛けて接し、選択肢のある話し方・聴き方に努めています。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様の状態に合わせて声掛け・誘導し、職員側の意見が優先される事のないよう意識しています。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時や入浴後など、本人が着たい服装を選択できるよう声掛けをしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理補助や配膳、下膳や洗い物を一緒にやって行っています。また、食事内容についても要望を聞きながら調理しています。	献立は買い物しながら考えたり、冷蔵庫にあるものを見て入居者と職員と一緒に決める。職員は入居者と一緒に調理をしながら色々なことを教えてもらっている。近くのうどん屋さんに出かけたり、庭にテーブルを出して昼食をとったり、誕生日のケーキ作りなど楽しんでいる。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や栄養バランスには気を付けており、水分もこまめに摂取できるよう常にテーブル上にお茶を置いておくなどして配慮しています。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事の後には必ず口腔ケアをしており、介助が必要な方には確実にケアを行っています。訪問歯科サービスも受けて頂いております。		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりのADLを本に介助方法を見極め、出来ないところのみをサポートしています。	数名がリハビリパンツを使用する。夜間、外出時のみの方もいるが、なるべくトイレで排泄できるよう、タイミングを見て声かけや誘導をしている。羞恥心に配慮し、その人に合わせた声かけや、言葉遣いを工夫している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘が見られた時には腹部マッサージや、水分の摂取などの対応をしています。さらに併せて協力医療機関に支持を仰いでいます。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	2～3日に1回のローテーションで入浴して頂いており、本人のペースに合わせています。	入浴は午後の時間帯でほぼ1日おきとなっているが、希望すればその日に入浴することができる。ゆず湯、菖蒲湯、みかん湯などで楽しむほか、日曜日は併設施設の準温泉の足湯を楽しんでいる。今後、温泉気分を味わえる大浴場の利用を計画している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床・修身の時間は設けていますが、本人の希望に沿った対応をしています。昼夜逆転しないような管理も行っています。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	定期的に届く内服の処方箋に目を通し、内容の把握と理解に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	取りまとめた「出来る事・出来ない事」を参考にしながら役割分担をし、本人の要望に応じよう心掛けています。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員の対応力を見ながら、安全を優先に外出や散歩などを行っています。	毎日ごみ出しがてら近所を散歩している。週3日は3人ぐらいで職員と食材などの買い物に行く。春と秋には行楽地に日帰り旅行に出かける。近くの公園にお弁当を持って出かけることもある。花壇や中庭のプランターの水やりが日課となっており、戸外に出る機会は多い。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理能力を踏まえながら家族の了解と確認を得て、希望されるなら金銭の所持をして頂いています。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	必要に応じて連絡の媒体方法として電話や手紙やはがきを用いたり、本人が希望される時にも電話を繋いでいます。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとにカレンダー作成や飾り付けをしたり、整理整頓に努め、どなたでも気持ちよく来て頂けるように努めています。	居間は広い芝生の中庭に面しており、明るく開放的である。壁には手づくりカレンダーや行事の写りが貼られているが、過剰な飾りつけはなく落ち着いた。畳のスペースもあり、廊下にもソファが置かれている。裏庭には花壇、野菜畑があり、屋根の下ではテーブルを出してお茶や食事を楽しんでいる。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとりの性格を把握しておく事と、その日の状態に合わせて居室や自室で過ごせるよう声掛け対応しています。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	持ち込み品や大切な物など、危険物以外は拒否する事なく受け入れています。	ベッドといすが備え付けのほか、タンスや本棚など使い慣れた家具が持ち込まれている。趣味の作品を飾ったり、好きだった歴史物の全集を置くなど、その人らしい居室となっている。安全対策として書面で同意を得て夜間のみ見守りカメラを作動させる。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共同生活を送れるよう支援し、出来ることはやってもらい、出来ない事をサポートしています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2372102216		
法人名	南部薬品株式会社		
事業所名	グループホーム リズム		
所在地	岡崎市若松町字西之切50		
自己評価作成日	平成22年25日	評価結果市町村受理日	

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	
所在地	
訪問調査日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「いたわりあい・たすけあい・おだやかに・ともにくらす」の理念としています。施設の周りには田畑があり季節を感じる事ができ、花見・夏祭り・運動会などの施設行事も行っていきます。春と秋には日帰りの行楽へ出掛け職員も一緒に楽しい1日を企画します。また、家庭菜園やガーデニングもレクの一環に取り入れており、花壇の手入れや作物の収穫をしたら調理して食卓に並びます。地域密着型ですので、地域の方との交流を大切にしています。ボランティアの方による歌や踊り、地域の方をお誘いしての夏祭りなどの施設行事、民生委員や包括支援センターや総代様との密な連絡を行っています。職員への勉強会を月に一回実施し、サービスの向上を目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)	
---------------------------------	--

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	両ユニットの玄関に掲示板を設置しており、「いたわりあい・たすけあい・おだやかに・ともにくらす」を常に意識できるよう張り出してあります。		
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方たちによるボランティアを月に4～5回行って頂いています。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	夏祭りや会社主催のイベントなどの催し物へお誘いし、参加して頂けるよう案内をしています。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族代表の参加者人数を増やし、より多くの家族の方に来て頂いています。議事録を作成し、会議での重要事項や要望は必ず全職員へ伝達しています。		
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市役所からの定期的な回覧文書や、法令を遵守する為の運営規定の確認や業務内容の相談を行っています。月に1度、民生委員が訪問に来て下さっています。		
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	社内外の研修や勉強会に参加・実施し、各入居者様が「本人らしい生活」を送れるように努めています。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内外の研修や勉強会に参加・実施し、各入居者様が安心して安楽に生活が送れるように意識を徹底しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実践者研修などで知りえた知識を全職員に共有できるよう勉強会の場を設け、入居者様の権利を侵害しないように細心の注意を払っています。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前にしっかりと説明をしています。また、不明な点があれば、いつでも応えられる体制が整っています。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設内に意見箱を設置したり、申し送りの場として朝と夕のミーティングの実施を行っています。その伝達事項を书面化し、全職員が確認できるようになっています。		
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	自部署でのミーティングを毎月行って職員の意見を仰いでいます。会社としては意見調書なるアンケートを取りまとめています。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	半期ごとに各職員に課題や目標を設定してもらい、達成する事で評価対象の一つとなるので各々が努めるべきことが明確化されています。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月社内研修を行っており、知識と技術の向上を図っています。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎月の社内研修は部署問わず、どの内容の研修にも参加でき部署間においてお互いに協力し合える事を目的の一つとしています。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	傾聴を基本とし、本人の生活史や好みなどを会話の中で聞き取って理解する姿勢とその情報を全職員にも共有して統一したケアを心掛けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談など家族の声が直に聞ける場を設けており、漏れのないようアセスメントを行っています。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメント・ケアプラン作成・ケア実施・モニタリングを基本としています。当施設の併設型である特性を活かして、他部署とはすぐに連携が取れるように体制は整っています。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の個性や体調に気を配りながら「手伝わせて頂いている」という気持ちを忘れずに接しています。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族会の実施や、2か月に1回の「リズム便り」を送り近況報告をしています。各入居者様に担当職員を配置し、連絡事を任せています。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会や外出で訪れた方にはどなたでも歓迎し、入居者様との関わりを優先に対応しています。		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同での農作業や調理やおやつ作りなどの機会を積極的に設けています。コミュニケーションが苦手な入居者様には、職員が間に入って対応しています。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	年賀状のやり取りを続けており、問い合わせがあると快く対応させて頂いています。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の要望や希望に沿った部屋の環境作りや、共同の空間であるフロアなどの飾り付けについても意見を仰いで一緒に環境作りをしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	基本情報など生活史を作成し、その方の希望や想いを確実に把握し理解するように努めています。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	それぞれのADLやIADLに合わせて出来る事と出来ない事を把握し、残存能力を維持・向上できるように努めています。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族の希望や本人の思いを聞き取り、ケアマネと担当職員が相談をしながら適したプランを作成しています。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	アセスメント・ケアプラン作成・ケア実施・モニタリングを基本とし、気配り目配りを欠かさずに日々の介護記録を反映させながら作成しています。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設型の施設という特性を活かして、他部署との連携を図りながら要望があれば速やかに対応ができる体制になっています。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎月のボランティアによるイベントや出張サービスの理美容、外食した際の飲食店側の快い対応に、民生委員の定期的訪問などの支援があります。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎週木曜日に幸太中央クリニックと月に1回のおおばクリニックの往診があり、異常や要望があれば協力医療機関との連携がとれるようになっています。		
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当施設には必ず看護職員が勤務しているため、速やかに対応できます。また、診てもらった方の様子を詳しく伝える為にも、日々の記録を充実させています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院しあ際には入院先と密に連絡を取って経過観察を聞いたり、お見舞いや家族の方と連絡を取って様子を伺っています。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	必要に応じて家族の方と相談しながら、今後の在り方を聞き取り、希望や想いを聞いて汲み取るように努めています。		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	あいああ軽度の手当てではほとんどの職員が行えており、判断が困難な場合は看護師に指示を仰いでいます。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の対応・対策についての勉強会を実施しており、全職員が避難経路と非難場所を周知しています。		
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全部屋が個室となっており、プライバシーは確保されています。共有フロアと自室が行き来しやすい環境整備はされています。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人のニーズを聞き出せるよう傾聴に心掛けて接し、選択肢のある話し方・聴き方に努めています。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様の状態に合わせて声掛け・誘導し、職員側の意見が優先される事のないよう意識しています。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時や入浴後など、本人が着たい服装を選択できるよう声掛けをしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理補助や配膳、下膳や洗い物を一緒にやって行っています。また、食事内容についても要望を聞きながら調理しています。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や栄養バランスには気を付けており、水分もこまめに摂取できるよう常にテーブル上にお茶を置いておくなどして配慮しています。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事の後には必ず口腔ケアをしており、介助が必要な方には確実にケアを行っています。訪問歯科サービスも受けて頂いております。		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりのADLを本に介助方法を見極め、出来ないところのみをサポートしています。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘が見られた時には腹部マッサージや、水分の摂取などの対応をしています。さらに併せて協力医療機関に支持を仰いでいます。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	2～3日に1回のローテーションで入浴して頂いており、本人のペースに合わせています。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床・修身の時間は設けていますが、本人の希望に沿った対応をしています。昼夜逆転しないような管理も行っています。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	定期的に届く内服の処方箋に目を通し、内容の把握と理解に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	取りまとめた「出来る事・出来ない事」を参考にしながら役割分担をし、本人の要望に応じるよう心掛けています。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員の対応力を見ながら、安全を優先に外出や散歩などを行っています。		
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理能力を踏まえながら家族の了解と確認を得て、希望されるなら金銭の所持をして頂いています。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	必要に応じて連絡の媒体方法として電話や手紙やはがきを用いたり、本人が希望される時にも電話を繋いでいます。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとにカレンダー作成や飾り付けをしたり、整理整頓に努め、どなたでも気持ちよく来て頂けるように努めています。		
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとりの性格を把握しておく事と、その日の状態に合わせて居室や自室で過ごせるよう声掛け対応しています。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	持ち込み品や大切な物など、危険物以外は拒否する事なく受け入れています。		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共同生活を送れるよう支援し、出来ることはやってもらい、出来ない事をサポートしています。		

(別紙4(2))

事業所名: グループホーム リズム

作成日: H23年 1月 8日

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	58	職員数が少ない日や忙しく慌てている時など、職員の都合で動いてしまう事があります	一人ひとりの生活ペースに合わせたケアを実施できるよう、気持ちにゆとりを持って業務に当たる	月間を通して職員の出勤人数のバラつきをなくし、バランスの取れたシフトを作る。ホームとしての生活の流れに沿って安全面を重視しながら計画的に効率よく業務に取り組みます	2ヶ月
2	60	天気や体調を考慮しながら散歩に出たり中庭へ出て外気浴を楽しんで頂けるよう努めていますが、職員側の都合で外出支援を控えてしまう事があり意向に添えない時があります	自由な生活を送っていただく為にもホームの雰囲気を開放的にし、本人が外出を望んだ滝に叶えられるよう対応する	定期的な外出支援が行えるようレクリエーションのスケジュールを計画し、本人の意向や思いを聞き取って支援を実施していきます	2ヶ月
3	64	面会に関して入居者に個人差があります。面会が多い入居者もいれば、全く面会がない入居者もいるので、家族や知人との関係が希薄にならないように取り組む必要があります	全入居者に定期的な面会があるように家族や知人の方に呼びかけ、働きかけていきます	2ヶ月に1回送付している「リズム便り」の内容に面会を呼び掛ける文面を入れたり、ホーム内でのイベントを企画し参加を促して会いに来て頂けるよう工夫していきます	2ヶ月
4	68	まだ家族の要望に対して十分に応えられていない部分もあり、指摘を受ける事があります	家族の方にとって安心して納得のいくサービスを提供できるようニーズを把握し、満足して頂けるよう工夫と改善を重ねていきます	家族会での面談時に家族の思いを吸い上げたり、外部調査にて行ったアンケート結果を基にニーズを把握します。それを一つずつ改善していくよう努めます	3ヶ月
5	65	地域運営推進会議を2ヶ月に1回開催しているが全ての家族に出席して頂けていないので、広く呼び掛けをしてきます	全入居者の家族へ会議に出席して頂き、定期的な近況報告・意見交換・コミュニケーションの場を増やしていきます	開催月の前日未までに参加案内の連絡をし、多くの家族に出席して頂けるよう呼び掛けていきます	2ヶ月
6					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目の を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。